

謹賀新年



立教188年

本愛

発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
 名古屋市中村区大宮町 1-60
 TEL (052) 461-4326
 MAIL mail@hon-ai.org
 〒632-0071
 奈良県天理市田井庄町 19-1
 TEL (0743) 62-0378
 編集責任 広報部

春季大祭

1月13日
午前10時

本愛大教会

年頭あいさつ

本愛大教会長

安藤 吉人

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年はそれぞ
 れのお立場で、おたすけの上にお励みくださり、誠に
 ありがとうございます。

その中でも6月23日に行われました大教会創立百十
 周年記念祭の上には、真実をお運び頂きまして、あら
 らためて御礼を申し上げます。

記念祭当日に、大亮様は私共本愛のようばくに対し
 て『先の楽しみ』というお言葉を御揮毫に残してお帰
 りになりました。

私たちの未来がより明るくなっていくよう、陽気な
 心と、教祖につながり、つなげる心をさらに大切にし
 ていきたいと思えます。

本年は、教祖百四十年祭に向かう仕上げの年。「う
 ちわけ会おどげがえり」を中心とした、にをいがけ・
 おたすけの活動に、それぞれが先を楽しみにして取り
 組ませて頂きたく存じます。本年も何卒よろしくお願
 い申し上げます。

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

に起こった「前橋事件」という事件に伴って伺ったおさしづの中にあります。この事件は前川菊太郎と橋本清という

の内務省から秘密訓令が出され、天理教に対する弾圧が激しくなると、折衝役であった橋本氏と前川氏も治安当局から非常に厳しい尋問や時には叱責も受けることがあったようです。

親神様のお望みになる陽気ぐらしとは、一部の人だけが味わってその裏で苦しむ誰かがいてもいいというものではありません。人間はつい目の前の人との関係にばかり目が向いてしまいがちですが、親神様は私たちの想像も及ばないところまで親心をおかけくださり、真に誰もが勇む姿を「陽気」と呼んでおられるのです。

昨年創立110周年記念祭では、日めくりカレンダーを記念品として参拝者の方々にお配りしました。教祖のお言葉など31の言葉を掲載しましたが、「あのお言葉について詳しく知りたい」といった声をいただきましたので、これから少しずつ取り上げてみたいと思います。

た二名が相次いで辞職するというものでした。橋本氏は、本席・飯降伊蔵先生と同じ櫛本町の出身で、当時としてはインテリ層とも言える小学校の教員を務めていた人物でした。初代真柱様とも同郷であったことから、信仰はなかつたものの教会本部の中枢に迎えられる教外との対外的な折衝役を務めていました。

周囲は思いとどまるように説得しますが二人は聞き入れず、協議の上で伺ったのが、冒頭のおさしづでした。当該の部分の直前ではこのように述べられています。

とはいえ、そのような人知を超えた範囲まで陽気にさせられる人というのはないでしょう。むしろだからこそ、このお言葉とその背景の事情を噛み締めるとき、目の前にいる人を大切に、心を勇ませ、陽気にさせることの大切さを痛感するように思うのです。今年も「今日を陽気に」過ごしていきましょう。

「ほんとの陽気」とは

皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。めんくく楽しんで、後々の者苦しますようでは、ほんとの陽気とは言えん。(『おさしづ』明治30年12月11日 日めくりは4日)



これまで艱難の道、今の道互いの道。辛い者もあれば、陽気な者もある。神が連れて通る陽気と、めんくく勝手の陽気とあ

る。勝手の陽気は通るに通れん。陽気というは、皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。

1月のこよみ

元旦祭

1日 午前5時

よふき会初例会

2日 午前10時

本部お節会

5日〜7日

春季大祭

13日 午前10時

教会長年頭連絡会

13日

青年会初例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会初例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

鼓笛隊練習日

19日 午前10時

婦人会初例会

20日 午前10時

こはる会初例会

20日 午前10時

女子青年初例会

20日 午前10時

本部春季大祭

26日 午前11時30分

教理随想



言わん言えんの理を探る

教祖百四十年

祭三年千日の三年目を迎えました。いわゆる「仕上げの年」です。

仕上げとは、物事を成し遂げる上での最終工程を意味しますが、三年千日の場合は、何をどう仕上げればよいのでしょうか。その悟り

方は人それぞれですが、一つの例として、「心を仕上げると考えてはどうでしょうか。

陶器などの焼き物にたとえると、土を練って形成する作業に始まり、乾燥、素焼き、絵付けなどの工程を経て、仕上げに本焼きを行

います。これによって形や色が崩れることなく、固くて丈夫な器や工芸品となります。

心仕上げも、この二年間で培ってきたひながたを歩む信念と人をたすける心が、この先の道中で崩れたり薄れたりすることのないように仕上げをして、何事にも動じない信仰の心を作り上げる努力といえるのではないのでしょうか。

具体的には今年一年を通して、一層進んで教会へ足を運び、信仰の要であるおつとめと身近なおたすけを今まで以上に実行して、教祖のご期待に応えられる成人を目指すことです。

おつとめは単なる天理教の伝統儀式ではありません。信仰のない人からはそ

う見られるかもしれませんが、ようぼくがそんな心であつてはなりません。おつとめは儀式ではなく、よろづたすけの根本手段です。

なぜならそれは、おぢばのかぐらつとめにつながる道であり、かぐらつとめは人間創造の元一日の働きを今に現すつとめだからです。

このつとめこれがこのよのはぢまりや これさいかのた事であるなら

(十五—29)

日常生活において、自分で道具の修理が困難な場合は、それを製造元へ持つていけば正常な状態に戻すことができます。それと同じように、人間の身に起こる病気や災難も、おつとめを通して元のぢばに心をつな

げば、必ず修復していただけるし、さらに有難いのは、おつとめで心に陽気ぐらしという元のいんねんが吹き込まれることで、その節を通して感謝と喜びが湧き上がってくることです。

存命の教祖は、教会でおつとめをつとめる人が増えていく姿を待ちかねておられます。だからこそ、人々に身上や事情の障りをつけて引き寄せられる。そのお手伝いをするのがようぼくの使命であり、これが本当のおたすけです。

■表裏一体

おたすけを進める順序は論達第四号に分かりやすく示されています。まず悩み苦しむ相手に親身に寄り添う。同時におつとめで身上事情の治まりを願う。そして病む人にはおさづけを取り次いで、真にたすかる道を伝え、共にその道を歩む。これを素直に実践すればよ

いのですが、相手の悩みを己一人の力で解決しようとすると難しくなつてきます。そこで親神様の不思議なお働きに焦点を合わせる心が重要になつてくる。おたすけを進める上で最も肝心なのがこの点です。

いかにすれば親神様のご守護を頂戴できるか。そのために自分は何をすればよいのか。基本は、おぢばに心をつないでおつとめをつとめる実践にあります。すなわち、おつとめとおたすけは別々の事柄ではなく表裏一体であることを心に治める姿勢が重要で、教祖がひながたを通してお教えくだされているのもこの点なのです。

悩み苦しむ人の身の上不思議が現れて、心がたすかり、さらに多くの人いたすけの輪が広がっていくように、仕上げの年を、おつとめと人だすけに邁進していきましょう。

【第120回】

仕上げの年にふさわしい心を定め実践を誓う時

総会開催

婦人会本心委員部(長江まどか委員長)では、11月24日午前10時より、安藤ちかひ本愛支部長を迎え、同分教会において「第63回婦人会総会」を開催した。

婦人会本枇杷島委員部(青木奈美子委員長)では、12月8日午前11時より、安藤ちかひ本愛支部長を迎えて、同分教会において「第26回婦人会総会」を開催した。

教人登録者

(令和6年11月13日付)

澁谷喜一(本耕愛)

澁谷美鈴(本耕愛)

以上2名

11月のおさづけの理拝戴者
オクデナリア・エンジェル

(本和合)

加藤光(本枇杷島)

公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

大教会日誌

令和6年11月25日~令和6年12月24日

11月

26日 本部月次祭

13日 月次祭

30日 常任役員会議◇役員会議

祭主 大教会長 扨者 青木健裕、板山眞一

12月

指図方 田中新一 賛者 佐藤幸一郎、出口順一郎

1日 入社祭

◇祭典講話 大教会長

祭主 大教会長 扨者 山神茂彦、細川明

青年会例会

指図方 杉村善男 賛者 野田正樹、桑子彰

14日 布教実修所

◇祭典講話 中島功雄

15日 女子青年例会

2日 よふき会例会

16日 むつみ会例会

おつとめ・十二下りてをどり

17日 こども食堂MOGU

12日 常任役員会議

20日 婦人会例会